

高山・市民の森 森林教室実施報告書

「森の散策と竹ストロー&小枝の鉛筆」



1 実施日時 令和4年11月20日(日) 10:00~14:30

2 参加講師名 NPO 森林インストラクターしずおか

担当者 矢下、杉山

アシスト会員 青野、小長井

3 参加者 9人 (大人 7人、子ども 2人)

4 概要

10月の森林教室が、台風15号の道路崩壊により、水見色へ行くことができず、延期となった。今年度初めて予備日を設定してあったので、今回、その分を振り替えての実施となった。

参加者は、当日のキャンセルが1件あり、4家族9人での実施である。1週間前の森林教室に続き、参加して下さった方2組と、初めての参加となった方2組である。

天気予報では、今日は朝から雨の予報であったので、雨バージョンとしてミニクリスマスツリー作りを準備していた。しかし、曇り空でまだ雨粒は落ちて来ない。お昼まで何とか雨が降らないことを願いながら、雨具を準備して森の散策を行うことにした。

【森の散策】

先週参加の昆虫好き家族を青野インストラクターが、初参加の2組を小長井インストラクターと杉山インストラクターが担当した。

(青野班)

昆虫好きの子どもは、散策が始まる前から「森の恵」の縁の下に潜り、アリジゴク探しをしている。今回も、虫中心の散策となりそうだ。

林内で、クロモジの甘い香りを体験し、冬芽は、とんがり型が葉芽、円いのが花芽で、その違いを観察する。また、人工林では、スギとヒノキの違いを葉や樹皮で比較、確認した。

山頂からの下りの途中、大きなハウノキの葉を拾ったり、イタヤカエデとイロハカエデの違いを勉強しながら、「森の恵」まで戻った。

子どもは、もっぱら昆虫探しに夢中であったが、それでも虫かごの中には、ヒノキなど数種の果実が入っていた。

(杉山・小長井班)

初参加、初の高山の方もおられたので、手始めにミズメの香りを体験してもらおう。香りを持つ意味を説明する。参加者から隣のマテバシイの葉を見て「これは何?」との質問。葉に茶色の幾何学的な線が描かれている。絵描き虫だ。ハモグリバエ科の幼虫だが幾何学的な模様を描く訳を説明した。キハダの葉効について説明していたら、カモシカの登場となった。カモシカに皆、目が釘付けになった。カモシカに会えてよかった。

山頂を目指し、最短コースを登る。キッコウハグマやフユイチゴが見られた。子どもがフユイチゴの実を試食、初めての経験で「おいしい!」との感想だった。途中、人工林の中に広葉樹を植えてある場所があ

るが、混交林化や針葉樹、広葉樹の根の張り方や地表の支持力などについて解説した。キッコウハグマの花を見て、カサコソと落葉の斜面を歩いたりしながら山頂へ。参加者が合流、みんなでシカの糞を観察した。下りは、高山の池に寄る。シイタケやナメコのホダ場を見て、菌類の役割を勉強した。

【竹ストロー作り】

矢下インストラクターが、まず、17の持続可能な開発目標「SDGs」について目標や意義について説明し、特に海洋プラスチックの弊害、危機的な現況を解説した。今回は、その取り組みの一つとして、竹ストローづくりを行う。

内容は、竹ストローになるヤダケの切断と稈の中の清掃、研磨、煮沸消毒、ケースの仕上げ研磨、コルクの蓋作成である。色々な種類のやすりやペーパーでストローになる細い稈の内部の清掃・研磨するが、これは大変な作業である。でも皆、真剣に作業する。どの工程にも時間と根気を要する。「これでどうですか?」「いや、まだダメ。口をつけるところだからもっときれいに。」なかなか矢下検査員のOKが出ない。何度目かでやっと合格し、煮沸に入る。ここまでできれば安心、試しに使ってみたくなる。

【小枝の鉛筆作り】

鉛筆の材料にサクラとヒメシャラを用意した。実用的鉛筆とアクセサリーの鉛筆を作ることを提案し、作成に入る。穴あけは難しいので、杉山インストラクターが引き受け、ヒートン、鎖、リングの取り付け、削りを参加者にやってもらう。鉛筆を削るためにナイフを安全に使えるのか心配していたが、子供も上手に削っていたので安心した。作業はスムーズで、赤鉛筆、普通の鉛筆、色鉛筆など皆、何本か作ることができた。鉛筆表面の艶出しを、ザラザラの葉、ムクノキで試してもらった。ピカピカにはならなかった。残念!

5 写真

【森の散策】



カモシカの登場



これはヤマコウバシと言い…………。

【竹ストローづくり】



【小枝の鉛筆】



以上のおり、報告します。

(取りまとめ 杉山)